

## 実務薬学

《担当者名》講師 / 早坂 敬明  
教授 / 平野 剛      講師 / 高村 茂生

## 【概要】

近年、薬物治療の安全性と有効性の確保を目的として、「医薬品の適正使用」に対する認識が急速に高まっている。このような状況の中で薬剤師を取り巻く環境も大きく変化し、薬剤師がその専門性を発揮しながら医療チームの一員としての役割を担うことが社会的に求められている。またそのために取り組むべき業務も多岐にわたっている。

本講義では、「注射剤調剤」、「患者への服薬指導」、「処方箋と疑義照会」、「医療の安全管理」に関する基本的事項を修得する。さらに、これらの業務を通して、これからの患者指向の医療において、薬剤師がその職能を発揮し、かつ実践していくための応用的知識について学ぶ。

## 【学修目標】

注射剤、輸液の調製ならびに高カロリー輸液の調製を適正に行うために、注射剤などに関する基本的知識を概説できる。

安心安全の医療を実践するために、医療過誤を引き起こさない態度を身につけ、また医療安全と医療事故防止の基本的知識を概説できる。

医療チームの一員である薬剤師として、病院や薬局において患者に対して適切な服薬指導を行うための基本的知識を概説できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	服薬指導、患者教育 教科書：上 p60～64, 71～75	患者基本情報とその情報源及び媒体を説明する。 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-3-5 1)	早坂 敬明
2	患者情報の把握 教科書：下 p220～231	患者情報を適切に収集し、評価することにより、患者の状態を正確に把握する。 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。 基本的な身体所見を観察できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 F-1-1 2)	高村 茂生
3	処方箋と疑義照会 教科書：下 p38～52	患者背景に基づいて、処方された医薬品（処方薬）の投与量、投与方法、投与剤形の妥当性を評価し、疑義照会の必要性を説明する。 処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。 処方箋等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度） 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-6-1 2)	高村 茂生
4	処方監査 教科書：下 p38～52, 123～135	医薬品の適正使用の観点から、処方監査・解析を行い、疑義照会・処方提案を実践し、調剤、服薬指導、患者教育等を行う。 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。 処方箋を監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。 代表的な処方箋例の監査をシミュレートすることができる。 調剤薬監査をシミュレートできる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》	高村 茂生

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		F-1-1 6)	
5 ) 6	患者・来局者対応 教科書：下 p20～22, 上 p58～60,65～66,83～ 89	薬物治療を個別最適化するために必要な患者情報を抽出し、考慮すべき事項を説明する。 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を聞き取ることができる。 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について説明できる。 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-3-5 3)	早坂 敬明
7	患者情報 教科書：上 p20～22,74,194～203	問題志向型システム(POS)の意義を理解し、SOAP形式等を用い、患者情報より問題点を抽出、評価、計画の記録をする。 守秘義務と個人情報保護に配慮した患者情報管理の重要性を説明する。 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。 問題志向型システム(POS)を説明できる。 SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-3-5 2)、D-3-5 4)	早坂 敬明
8	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p139～163	調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明する。 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-6-1 3)	平野 剛
9 ) 10	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p172～191	栄養素の過不足による疾病や健康障害について、食習慣や生活環境等の把握、健康状態の解析と、関連するエネルギー代謝や摂取基準等の理解のもとに、効果的な方策を立案する。 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 E-2-1 3)	早坂 敬明
11 ) 12	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p147	調剤の流れに従って、患者背景ならびに処方された散剤、水剤、注射剤など医薬品の製剤学的特性に応じた基本的な調剤、調剤監査を行い、服薬指導すべき内容を説明する。 代表的な注射剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-6-1 3)	平野 剛
13	注射剤調剤 ・処方せんに基づく医薬品の調製 ・医薬品の供給と管理 教科書：下 p192～204, p205～219	市販されている医薬品では対応できない場合の医薬品の調製、使用、品質管理等について説明する。 無菌操作の原理を説明できる。 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	平野 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		《関連するモデル・コア・カリキュラム》 F-3-1 2)	
14	医療の安全管理 教科書：上 p164～187	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を把握し、医療現場での患者安全の原則と概念、安全を確保する体制や具体的な方策を説明する。 医療過誤やインシデント・アクシデント事例を収集し、要因を解析した上で、発生時や対応時における法的措置(刑事責任・民事責任)を理解し、医療環境に合わせた適切な対応と予防策を検討する。 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 F-3-3 2)、F-3-3 3)	平野 剛
15	医療の安全管理 教科書：下 p164～168, 上 p188～192	標準予防策を理解、実践し、感染経路別の予防策を実施する。 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 F-3-4 2)	平野 剛

## 【授業実施形態】

## 面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

受講態度(15%)、期末定期試験(筆記試験)(85%)により評価する。

試験終了後に解説講義を行う。

態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。

## 【教科書】

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本 上 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 調剤業務の基本 下 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

「薬物治療学」吉尾 隆編

## 【参考書】

「今日の治療薬」伊豆津宏二、今井靖、桑名正隆、寺田智祐編 南江堂

「第十四改訂 調剤指針」日本薬剤師会編 薬事日報社

「バザバ 薬学演習シリーズ 調剤学演習」小林道也、齊藤浩司、唯野貢司、千葉薫 京都廣川書店

「コンパス調剤学(改訂第4版)」八重徹司、緒方憲太郎、高取真吾編 南江堂

## 【備考】

適宜プリントを配布する。

## 【学修の準備】

・1～15回の授業では、予習として、講義範囲の教科書および関連項目を事前に読んでおくこと。(80分)

・1～15回の授業では、復習として、教科書及び配布プリント、講義ノートを活用して理解を深めること。(80分)

## 【関連するモデルコアカリキュラム】

D-3-5 患者情報 1)、2)、3)、4)

D-6-1 処方箋に基づいた調剤 2)、3)

E-2-1 食品機能と疾病の予防・治療における栄養 3)

F-1-1 薬物治療の個別最適化 2)、6)

F-3-1 医薬品の供給と管理 2)

F-3-3 医療安全の実践 2)、3)

F-3-4 医療現場での感染制御 2)

**【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

**【実務経験】**

平野 剛(薬剤師)、早坂 敬明(薬剤師)、高村 茂生(薬剤師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

教科担当の3名は、薬局・病院薬剤師としての豊富な実務経験があり、臨床における薬剤師業務の基本的な事項を講義する。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している